

巻頭言

S 社長へ

加納 研之助



ご無沙汰しています。一度フランスへ遊びに来ると言っていたのになかなかですね。景気が悪くてそれどころではないというのでしょうか。でも、こちらだったら、石造りなので建替えが少なく、建築業全体の売上も新築より修繕の方がずっと多いくらいですが、日本であれば、不景気の中、投資でアパートを建てる人はあまりいなくても、家が古くなって建替え時期になる人は景気とは関係なく常にいるのではないですか。社長は町内で顔が広いからそういう仕事は取れているのかと思っていましたが。

そういえば、近くの私鉄駅の周りの商店街が元気がなくなって行くのをなんとかしようと、本業でないほうでも忙しそうでしたが、「アニメのまち」は進んでいますか。フランスにもアングレームという「マンガとアニメのまち」があります。先日行ってきましたが、国立のアニメーション学校や「音と映像」リセをはじめ学校が充実していて、まちの活力は単価は低くてもやはり若い人、そのためには学校もストレートに有効、と思ったことでした。

マンガ・アニメ業界は伸びているからよいのですが、フランスも全体的には景気が良いわけではありません。失業率は何年かぶりに10%を窺うレベルになってきましたし、年金医療改革や地方分権の動きを見て、国はもう自分たち大衆を守ってはくれないのではないかと、皆が思いはじめて財布を締めています。建設業も、つい先日フランス最後の閉山となった炭鉱のような不況業種でこそないものの、特に好調ということではありません。でもその割には人手不足状態になっていて、各地の建設業協会は高校生や中学生を工事現場に招いたりイベントをしたり、若い人へのPRに一生懸命です。教育省も若年の失業を少しでも減らそうと、雇用吸収力のある建設に着目し、職業教育の各機関や建設業界と一緒に「職業適格証（CAP）を取って建設業へ行こう」というサイトを作りました。

CAPというのは職業技能資格で、バカロレアを取って大学などに進むのではなく、職業に就くコースの人が目指す資格で、特に専門性が高い技能について細かく分かれた資格が与えられます。たとえば、「CAP料理」と「CAPパン職人」、「CAP菓子職人」はそれぞれ別で、それはそうかなと思いますが、自動車整備で

は乗用車とトラックは別、更に農業用トラクター、2輪車も別です。庭・公園用機器の整備管理などというものまであります。

フランスというところは資格社会で、就職は資格がないと本当に難しくなります。社長のところは貸家回転もしているの宅建の資格者がいると思いますが、こちらのCAPなどの資格は、日本の宅建のように業をするのに公的な規制があって必要になっている資格ということではないので（いくらかはありますが）、その人の技能そのものが資格により評価されて雇用が決まって行っていることになります。社長だったら「仕事は入ってから覚えりゃいい」から、見るのは人柄とやる気でしょうけれど。

ですからCAPもそれに必要なあらゆる具体的技能について一つずつチェックがあり、「CAP—土木構造物の建設」の場合であれば、まず足場について、「足場工の脚の据付け—使うサイズは合っているか、地盤の特性は考慮されているか、設置後安定しているか」という調子で「足場工の組立て」「足場へのアクセスと安全」「足場の解体」「足場材料の保管」の5項目あり、これが型枠、支保工、コンクリート打設…と続きます。バカロレア試験の方が楽かも…。実際、大学を出ても就職できず、CAPなどを取って「手に職」方面に転進する人もたくさんいますから。

それにしても長い日本の不景気ですがそちらは必ず回復すると信ずることとして、それよりも人口が減って行くほうが大変なところかもしれません。フランスは先進国の中では例外的に出生率が高く、労働力の移入もほとんど必要ないくらいですが、何が日本と違うのでしょうか。「恋の国？」さあ。「育児を社会がサポート？」それもあるでしょう。でもたぶんその他に「家庭観」のような深いところでの文化の違いがあり、そうだとするとこの差は一朝一夕には埋まらないような気がします。まずは育児のサポートまでをしっかりとやってみて下さい。アニメのまちと本業の建設のほうも。まだ当分こちらにはいますから、景気がよくなったら是非遊びに来てください。